

# 日ヶ谷地域実質化された京力農場プラン

市町村名	地域名 (該当集落名)	当初作成年月	更新年月
宮津市	日ヶ谷 立、大西、厚垣、落山、藪田	令和5年3月	

## 1 対象地区の現状

a 地区内の耕地面積	11.20 ha
b アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕地面積の合計	8.79 ha
c 地区内における80歳以上の農業者の耕作面積の合計	0.71 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	0.00 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.45 ha
d 地区内において今後中核的担い手が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.00 ha
e 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.00 ha
(備考)	
dは、5年以内に引受意向のある面積	

## 2 対象地区の課題

課題 日ヶ谷地区は宮津市の最北端に位置する旧村で、人口流出と高齢化が進み今後集落機能の維持が困難な状況にあり、現在、農家を中心に地域と農業の活性化方策について定例的に話し合いを重ねている。 農地は、大きく10団地に区分され、このうち比較的農地が集積しているのは3団地のみで、他の団地は総体的に少筆数単位で山間地に分散しており、中核的担い手の平均年齢は72歳で、地域農業の多くの担い手は高齢化により耕作できる労働力としては限界に近づいてきている。 ほ場整備済の農地については、当分の間は、管理委託や農地貸借等により維持は可能と思われるが、農業者の高齢化・後継者不足に伴い未整備地をはじめ山間部の農地から耕作困難な状況となり耕作放棄地の増加が危惧される。また、地域全体の農地が山間地に囲まれる立地から、深刻な鳥獣被害に対する防護柵等の維持管理や経費面に苦慮しており、日本型直接支払対象農地以外にある荒廃農地については、将来的には林地化や鳥獣緩衝帯などの粗放的管理を検討していく必要がある。 過去にはゴボウなどのブランド商品の生産が盛んで粘性土の良質な土壌が豊かな食材を供給しており、産地復活に向けた取組が期待されている。
--

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

担い手農家への補完作業体制を検討し、労働過重による集約・集約阻害を軽減し、地域担い手として育成する。
--